

町長所信表明

令和8年7月31日

所 信 表 明

本日は、令和8年第2回山北町議会臨時会にご出席いただき、誠にありがとうございます。臨時会開会にあたり、私の町政に取り組む所信を述べる機会をおつくりいただき、議員の皆様方に深く感謝申し上げます。

私は、この度の町長選挙において、町民の皆様の温かいご支援とご支持をいただき当選を賜りましたことに対しまして、衷心より厚く御礼申し上げます。

7月22日に初登庁し、職員の方々に温かく迎えていただき、町長の職務を引き継ぎ、町長に就任いたしました。私は、改めて町民の皆様から託された期待の大きさと責任の重大さに身の引き締まる思いがするとともに、町民の皆様のご厚情とご期待に応えるため、町政の推進に全力で取り組んでいく覚悟であります。

これまでは、一町民、一議員として山北町を見つめてまいりましたが、これからは、町をけん引していく立場として、町の抱える課題解決に向け全身全霊で力の限りを注ぎ込み、取り組んでいかなければならないと決意も新たにいたしました。

誰もがチャレンジできる希望ある山北の未来のために、諸先輩方や議員の皆様のご指導、ご助言をいただき、町職員と一丸となって町政の推進に全力で取り組んでまいり所存であります。

初登庁の就任あいさつでは、職員に対し町の仕事は究極のサービス業であり、来庁される方は皆様お客様です。爽やかなあいさつでご対応ください。また、いただいた相談や要望に対しても速やかな対応と、経過報告等相談後の状況を逐一相談者に連絡をしていただきたいと訓示いたしました。そして、私の町政に取り組む姿勢として「対話」「現場」「挑戦」の三つを大切に町政を進めてまいりますと決意を申し上げます。

まず「対話」ですが、町民の皆様の声に耳を傾けることはもちろん、職員同士、そして私とも率直に意見を交わせる風通しの良い職場を作りたいと考えています。

次に「現場」ですが、机の上だけでは見えない課題があります。現場に足を運び、町民の声を直接聞き、実情を理解した上で判断してまいります。

そして「挑戦」です。人口減少や少子高齢化など、山積する課題に対して、これまでのやり方を大切にしながらも、新しい発想や工夫を積極的に取り入れ、失敗を恐れず、まずは一步を踏み出す姿勢を大切にしていきたいと思いますと申し上げ、町政に取り組む理解と協力をお願いいたしました。

行政と議会とは車の両輪のような関係であり、執行者も議会議員の皆様も、町民の声を町政に反映する役割を託されております。今後、町民のための町政運営を円滑に行っていくためには、お互いに協力し、協調しながら進めていくことが大切であると考えております。お互いに託された使命は、山北町民の生活がより豊かで住み慣れた地域で安心して生活できる環境を整えることであると考えます。同じ使命に向かってともに力を合わせて取り組んでいただきますよう、お願い申し上げます。

私は、就任早々に神奈川県や近隣市町村など関係機関へご挨拶に伺ったところではありますが、温かい激励の言葉とともに、協力の約束をいただけてきたところでもあります。

現在、日本の経済状況は賃上げと物価上昇が伴うインフレ経済の好循環を模索しつつ内需主導で緩やかな拡大傾向にあります。一方で、少子高齢化による慢性的な人手不足や、海外経済の動向、為替の不確実性などの課題も抱え、物価高騰による生活への影響が顕在化しています。町長の責務は、町民の生命と財産を守り、町民の利益と幸せを守ることです。国・県の補助メニューなどを活用し、町民の生活をしっかり守ってまいります。そして、山北町の繁栄に向け、知恵を出し行動することだと考えております。

それでは、私の町政に取り組む基本的な考えについて申し上げます。

まず、人口対策ですが、少子高齢化による著しい人口減少は町の衰退や財政破綻を招くなど大変深刻であります。

少子化の現状を厳粛に受け止め、子育て世代に選ばれる環境整備として、子

どもたちが安心して自然の中で遊べる遊び場の整備、異年齢交流で遊びや交流を通し思いやりや知識の向上を図るなど、都会との差別化を図るとともに、幼稚園、保育園のあり方を検討してまいります。また、安心して子育てできる環境の充実として、子育て支援センターの充実を図るとともに、産前産後のケア、相談のできる環境を整えるため、助産院を誘致するなど子育て世代に選ばれる町にします。

高齢化の状況としては、当町の高齢化率は約43%と県内33市町村の中では第三位と特に高い水準となっています。高齢化に伴い医療や介護などの負担が増加し、町の財政を圧迫していることは深刻ですが、一方で、今までの山北町を支えてこられた方々が住み慣れた地域で自分らしく生活できる環境を整えることは重要であります。

こうした状況を踏まえ、町民の皆様の健康づくりは重要な課題です。健康維持のための予防、病気になった時の医療、介護が必要になった時の相談体制などの充実を図ります。

そして、高齢者の活躍推進と健康寿命の延伸にも努めます。地域・コミュニティでの支え合いを強化し、住み慣れた地域で自分らしく活躍できる環境整備、また、高齢者の外出支援の見直しを図ります。

障がいのある方や支援が必要な方などに対しましては、社会福祉協議会と連携した相談体制の強化、家庭や地域で安心して暮らすための保険・医療・福祉などと相互連携の強化に努めます。また、高齢化が進んでいる現在、社会福祉協議会の役割はますます重要になっています。社会福祉協議会が安定的に活動できるよう、人員確保やサービスのあり方について必要な支援・協議に努めてまいります。

人口増加に向けては、新東名工事終了後には宿舎跡地に企業誘致を進め、雇用の創出、移住定住の促進に努めます。人口増には子育て世代の定住がカギを握ります。東山北1000まちづくり基本計画を推進し、山で遊び、川で遊べる環境を整えることで、子育て世代に選ばれる町にし、移住定住や町の活性化に着実につなげてまいります。

交通対策ですが、バスの減便や電車の運行本数が少なく、通勤、通学、買い物等の不便は若者の町外への流出を招く要因であるとともに、高齢者の生活の質低下にもつながっています。公共交通全体の見直しが必要と考えます。

玄関まで送迎できるデマンド交通や地域で協力していく地域交通など、町全体の公共交通を見直し、より超高齢社会に対応した交通のあり方を検討してまいります。

御殿場線の輸送力増強、エリアを跨ぐ交通系ＩＣカードの利用実現については、神奈川県内の市町村で構成されている神奈川県鉄道輸送力増強促進会議や御殿場線沿線の市町で構成されている御殿場線利活用推進協議会などと引き続き連携し取り組んでまいります。

デジタルの活用ですが、町民の暮らしをより便利にし、職員の仕事を便利にするだけではなく災害時など、どのような状況下でも町の仕事を止めることなく継続できるようデジタル化を進めてまいります。

スマートフォンからの手続きや電子回覧板、地域情報のやりとり、パソコン上で災害のシミュレーションや新しいまちの計画に役立てます。災害時には、スマートフォンで町民や観光客へリアルタイムで避難情報を配信してまいります。

町の財産は９０％を占める豊かな森林です。山の活用については、稼げる山、遊べる山、災害に強い山をめざします。山林の果たす役割は地球温暖化防止、治山・治水などの災害防止や環境保全、おいしい空気やおいしい水の創出など、山は大きな役割を果たしています。

山北町の豊かな森林の保全、活用には、技術の習得・伝承ができる担い手の育成が必要であり、林業に特化した地域おこし協力隊の募集、育成を図り、町の林業の活性化・山の保全に努めてまいります。また、地域おこし協力隊の当町への定着を図るための支援も行なってまいります。

そして、当町の自然を最大限に生かし、自然の中で遊べる環境を整備し、都

市部にはない魅力あるまちづくりを進め、他地域との差別化を図ってまいります。

災害対策ですが、災害の発生は予測不能です。いつ発生するかわからない災害対応は急務です。避難のあり方、備蓄品の見直し、清潔なトイレの確保に努めます。また、富士山噴火に対する対応も重要ですが、一自治体では対応は難しく、災害協定を結ぶ自治体への協力や国の支援の協力を仰いでまいります。

観光振興としては、当町には様々な観光資源がありますが、観光客の滞在時間が短く、購買力も弱いなど課題も多く、滞在時間を長くし観光消費額を増やす対策が急務であります。(仮称)山北スマートインターチェンジの開通に伴い、日本最大級のバランスドアーチ橋「山北天空大橋」を観光名所とし、土地開発公社所有の土地に民間企業を誘致するなど、より一層魅力的な地域にすることで、観光客の滞在時間を延ばし、消費額を増やしていくことも可能であると考えます。

また、三保地域はドローンの練習場や、自然を活かしたサバイバルゲーム・マウンテンバイクのフィールドにも適しています。週末には心身ともに癒せる2拠点生活の場としても適しています。ワーケーションやリモートワークなど生活の多様化に適した場としてPRしてまいります。

また、当町にある歴史や文化と観光を結びつけることで、観光地としての価値を上げ、何度でも訪れたい観光地にしてまいります。

そして、三保ダム見学と三保の家での休憩をパッケージにして、遠足を誘致するなど関係人口の増加に努めてまいります。

商店街の活性化ですが、山北駅は昔から鉄道のまち山北の玄関口として重要な場所でした。しかし、近年では、高齢化や後継者不足等の理由により商店が廃業するなど、商店街の活性化が課題となっていますが、最近では他町の方が飲食店をオープンするなど嬉しい動きも見られるようになりました。そこで、地域の高齢者の方に外食ツアーとして町内の飲食店でお食事をしていただき、

おなかも心も満たしていただくことで、元気なやまきたをめざしてまいります。

また、駅周辺には事業者に植栽をしていただき、花で賑わいを演出し商店街の活性化につなげてまいります。

現在、やまきた駅前朝市実行委員会が実施している朝市や、山北町商工会が実施している縁 j o y やまきたを支援することで人の訪れる機会を増やし、交流人口につなげてまいります。

山北駅舎の建替えの計画もあります。鉄道のまちの玄関口にふさわしい話題性があり、人の集まる駅舎に生まれ変われますよう、引き続き J R と協議してまいります。

今回の町長選におきまして、多くの皆様から貴重なご意見を伺うことができました。

町民の皆様のお声を町政運営にしっかり反映し、町の魅力、町の資源、豊かな人材を活かし、未来に希望の持てる思いやりのある誇れる山北町を作ってまいります。

町政を執行するにあたり、常に町民の皆様との対話を大切にし、信頼されるまちづくりに邁進してまいります。町民の皆様お一人お一人が、わが町を誇れるよう情熱と誠意をもって、謙虚にかつ大胆に町政の運営に取り組む覚悟であります。

議員の皆様方には私の考えをご理解いただくとともに、皆様と力を合わせ公平無私の心で町政を実現していくことが町民の皆様の信頼を築く第一歩となることを確信しております。

今後ともご指導とご鞭撻を衷心よりお願い申し上げます、私の所信表明といたします。

令和 8 年 7 月 3 1 日

山北町長 石 田 照 子